

クラスだよりの 1 ページをもらって、寿の方たちとのかかわりを、思いつくまま書かせていただきます。よろしく。むらた

老人クラブのおじいちゃんたち

むらた

寿の老人クラブは、櫟くろぎの会という名前です。1972年に当保育所で発会式を行いました。木楽（きらく）にいこうをモットーに、当時の神奈川県匡済会の芹沢会長が名付け親です。それからですから34年のお付き合いになります。現在の会長さんは、寺田秀雄さんで6代目になります。保育所の清掃等をしていただいているのは、職員紹介にあるとおり、荒川さん、市村さん、清水さん、今さんです。朝の5時前にはもう玄関前に来ていて保育所前の歩道や園庭の掃除や水撒き、砂場の砂起こしをしています。職員が来て玄関を開けると、保育所の園庭側の扉や窓を開け、玄関や下駄箱、ホールなど清掃してくれます。

おじいちゃんたちも、子どもたちの声に癒され、元気をもらっていると言っています。保護者の皆さんも、見かけましたら声をかけてください。

何時も気持ちよく過ごせるのは、クラブの皆さんのおかげです。ありがとうございます。

ことぶきで暮らす人々あれこれ ①

むらた

スリで生きて80歳

ある日、簡易宿泊所（以下ドヤと称す）の管理人さんから電話が入った。「ネエ、村田さん、相談に乗って。うちに泊ってる80歳のじいちゃんが、スリの現行犯で捕まっちゃったの。刑事さんからねー、余罪がいっぱいあってこのままでは生きて娑婆とくばに出られないだろうって。身元引き受け人がいれば、何とか釈放させられるって。」というわけで、身元引受人になった。翌日、おじいちゃんは、管理人さんに連れられてあいさつに来た。大柄で白髪が見事な温厚な人でした。外見からは、常習のスリだとはとても思えない。

10日ほどして、くだんの管理人さんから電話があった。「村田さん、こまっちゃたのよ。あのおじいちゃん、うちに泊ってる人のものをまたやっちゃったのよ。おじいちゃんがスリの常習なのは、泊ってる人のほとんどが知ってるのよ。知らないのは本人だけなの……。何もうちに泊ってる人のものやらなくてもいいじゃない。」聞いていておかしくなって笑いが止まらなかったが、なぜか涙がにじんできた。

スリをして80歳まで生きてきた。人間てなんてすごいんだろう……。何か、生きる力がわいてきました。

ことぶきで暮らす人々あれこれ ②

むらた

おもらいさんのこと

うめぼしばあさんとは、こういう人のことだろう。腰が少し曲がって、やせていて、日に焼けたしわだらけの顔に目がくりっとしていてかわいい。「この莫^ま産^{さん}あずかって」とおいていった。時々、あいさつに来て雑談し、莫^ま産^{さん}を持って出て行く。そして、またあずけていく。どんな方なんだろう？興味がわく。

ある日、おばあちゃんが、心配そうな顔をして相談したいことがあるとやってきた。

「生活保護が打ち切られるの。」とのことだった。話を聞いてみる。

おばあちゃんは、時々、伊勢佐木町商店街の入口の吉田橋に莫^ま産^{さん}を敷いて座る。前に空き缶を置く。半日位すると千円ほどになるという。それをもって、川崎に行き好きな映画を見て、うどんを食べてくるのだそうだ。それが無上の楽しみとか。ある日、吉田橋で座っているところを福祉の担当さんに見られたのだという。それで、保護は廃止ということになったようなのである。僕は、ウームとうなってしまった。

担当の方とおばあちゃんをまじえて話し合いをした。担当さんの主張は、おもらいさんの収入を届けなさいということである。結果は、おもらいさんはもうしないということになってしまった。おばあちゃんの無上の楽しみが失われた瞬間だった。

以来、おばあちゃんは来なくなってしまった。しばらく、僕は、大切な落し物をしたように頼りないさびしい気分だった。

次回はがじりやさんのこと。